



認証番号0005548

環境経営レポート 2022

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日

発行日：2022年7月1日



日立建機グループ
新東北メタル株式会社

【 目 次 】

1. 環境経営方針	2頁
2. 事業概要	3頁
(1) 事業者名及び代表者名	
(2) 所在地	
(3) 活動範囲	
(4) 環境管理責任者及び連絡先	
(5) 事業内容	
(6) 事業規模	
3. 活動経営目標	4頁
(1) 2021年度及び中期(2023年度) 数値目標	
(2) その他取組の行動目標	
(3) 実施体制	
4. 実績・取組結果	5頁
(1) 実績値と分析	
(2) エネルギー使用量及びCO ₂ 排出量の推移	
(3) 行動の取組結果	
5. 2022年度及び中期(2024年度まで)目標	6頁
(1) 経営〔数値〕目標	
(2) 経営〔行動〕計画	
6. 活動状況【写真集】	7頁
7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	8頁
8. 管理責任者の評価	8頁
9. 代表者による評価と見直し・指示	9頁

環境経営方針

基本理念

鑄鋼品の製造・販売を通して、内外から信頼される企業姿勢を確立すべく「環境との調和・社会との共生」を考えた環境経営システムを構築し、自主的かつ継続的な環境保全・改善活動の推進により広く社会に貢献します。

行動指針

- 1.電力、LPG等省エネルギー推進により、二酸化炭素削減を推進します。
- 2.廃棄物・水の削減等省資源に努めます。
- 3.化学物質の使用量削減、適正管理に努めます。
- 4.生産資材の環境配慮製品の活用を推進します。
- 5.鑄鋼品工場として、クリーンファクトリーを目指します。
- 6.生産工程改善、品質の向上により生産性向上を推進します。
- 7.環境関連法規等を順守します。
- 8.環境経営方針を全社員に周知徹底するとともに、環境保全・環境改善に関する意識向上のための教育と啓発に努めます。

2021年7月1日改定
(第3版)

新東北メタル株式会社

社長 来栖 直敏

(1) 事業者名及び代表者名

新東北メタル株式会社

代表取締役社長 来栖 直敏

(2) 設立

2001年4月1日

(3) 所在地

本社・工場

〒018-3301

秋田県北秋田市綴子字上台121-2

TEL : 0186-62-2381 FAX : 0186-62-2387

HP : <https://www.shintohokumetal.co.jp/>



(4) エコアクション21の活動範囲

本社・工場（全組織、全活動が対象）

(5) 環境管理責任者名及び連絡先

責任者：管理部長 黒田 淳

連絡先：TEL・FAX 所在地と同じ

e-mail : m.kurota.rh@shintohokumetal.com

(6) 事業内容

鋳鋼品の製造・機械加工及び販売

【建設機械、産業機械、橋梁、建築、他部品】

(7) 過去3年間の事業規模

規模	単位	2019年度	2020年度	2021年度
資本金	千円	255,000	255,000	295,000
生産量	t	3,287	1,844	2,593
従業員数	人	99	96	98

環境経営方針及び現行負荷・取組内容等を踏まえ、日立建機グループ全体の目標を考慮した上で、実現可能と考えられる削減幅を設定して目標としている。

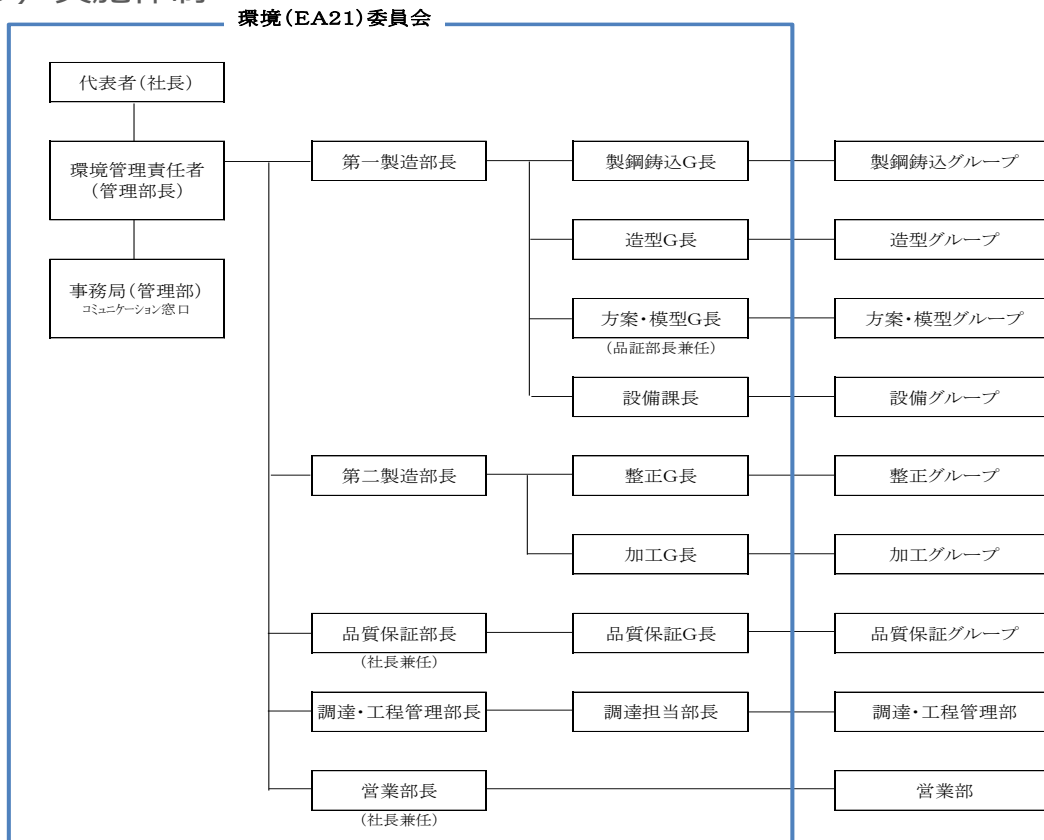
(1) 2021年度及び中期(2023年度)数値目標

項目	単位	基準値 (2010年度)	中期目標 (2023年度)	2021年度目標
二酸化炭素排出量 (総量)	t-CO ₂	5,368	5,109	4,188
二酸化炭素排出量 (原単位)	t-CO ₂ /生産t	1.70	1.44	1.40
水使用量	m ³ /生産 t × 100	0.15	0.14	0.15
産業廃棄物排出量	産廃 t /生産t	0.41	0.54	0.56
化学物質使用量 (V.O.C)	使用 k g /生産t	3.32	1.41	1.43

(2) その他取組の行動目標

- 『環境適合品購入の推進』
エコマーク及びグリーンマーク製品他、適合品の優先購入を継続する。
- 『環境保全意識の向上』
全従業員を対象に環境教育を実施する。
- 『地域環境への協力』
年1回、地域のクリーンナップ活動に参加する。

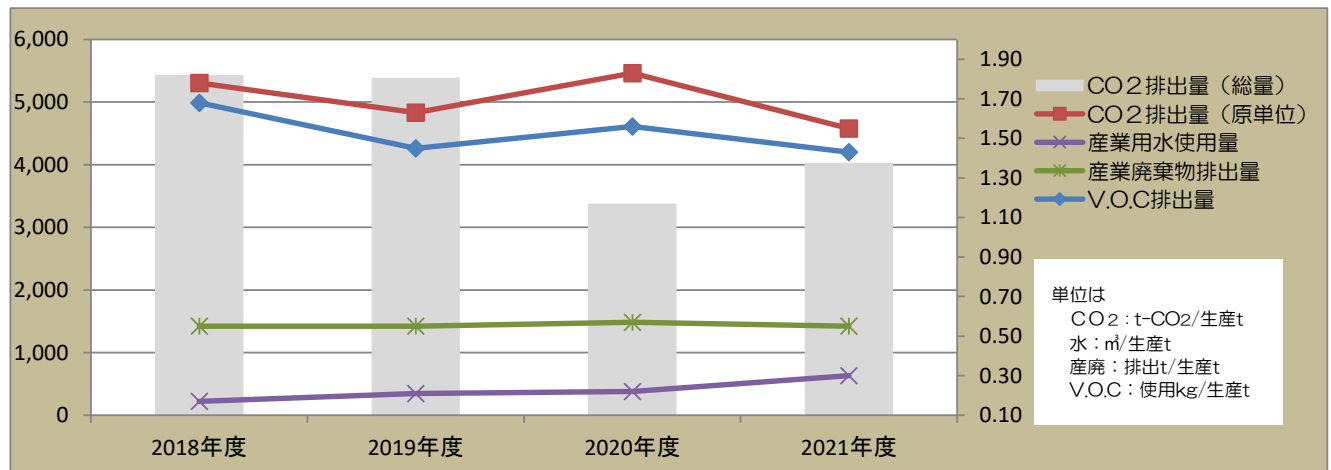
(3) 実施体制



(1) 実績値と分析

項目	過去実績推移			2021年度			分析	
	単位	2018	2019	2020	目標	実績		達成率
CO2排出量 (総量・原単位)	t-CO2	5,419	5,373	3,364	4,188	4,017	104%	生産量(出荷量)が目標を大幅(約400t)に下回った事から、発生量は達成したものの、原単位では未達となった。
	t-CO2/生産t	1.78	1.63	1.83	1.40	1.55	89%	
産業用水 使用量	m ³ / 生産t	0.17	0.21	0.37	0.15	0.30	-100%	設備の故障等により使用量が大幅に増加し、また生産量も目標を大きく下回った事から、前年に引き続き大幅未達となった。
産業廃棄物 排出量	t/ 生産t	0.55	0.55	0.59	0.56	0.55	102%	従来よりクロマイトサンドの使用量を削減した事から、ばいじんの排出量が減少し、達成となった。
化学物質使用量 (V.O.C)	kg/ 生産t	1.68	1.45	1.56	1.43	1.55	92%	全般的に使用量低減が困難で、やはり生産量が目標を大幅に下回った事から原単位が悪化し、未達となった。

(2) 4 負荷の推移 (原単位+CO₂総量)



(3) 行動の取組結果

目標項目	取組内容	評価	目標項目	取組内容	評価		
二酸化炭素 排出量削減	照明	8	廃棄物 削減	①クロマイトサンド使用量を低減する。	8		
	①昼休みなど、部屋を使用していない時は、照明消灯を確実に実行する。			②砥石を適正使用し、廃棄量を抑える。			
	②会議室、給湯室、社員用トイレ、倉庫、更衣室等不要な時は、消灯する。			③分別を徹底し、鉄製品を材料としてリサイクルする。			
	③常に節電を心がける			④こぼれ砂を回収して再利用する。			
	冷暖房	6	水 削減 量	①水を出しっぱなしにしない。	8		
	①冷暖房の温度(冷房28℃、暖房22℃)を順守する。			②節水の表示を行なう。			
	設備の節電			③朝礼時に随時、節水を励行する。			
	自動車燃料 使用量削減	①昼休みなど、休憩時、不必要な箇所は消灯し、パソコンモニターの電源は切る。	8	物 質 学	V.O.C取扱 量削減	①使用量を把握する。	8
		②工場では、昼休みはコンプレッサーを停止、または稼働機を減らす。			②適正量使用に努める。	8	
		③工場溶解部門では、1ch当たりの電気炉操業時間の短縮に努める。			8	グ リ ン 購 入	事務用品を可能な限り、エコマーク・グリーンマーク商品にする。
	灯油・LPG 等使用量 削減	①お湯出しっぱなし禁止。(灯油)	8	そ の 他	社員教育	環境経営レポートを従業員全員に回覧し、意識向上を図る。	2
		②処理量の適正化等、ガス炉の効率的な運用を行なう。(LPG)			8	地 域 活 動	地域のクリーンアップ活動に参加する。
					合計点	170	98.8% 実施

(1) 経営(数値)目標

項目	単位	基準年度 (2010年度) 基準値	目標値(原単位)		
			2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素 排出量削減	発生量(t)	5,368	4,439	4,967	4,790
	生産量(t)	3,162	3,066	3,548	3,548
	t-CO ₂ /生産t	1.70	1.45	1.40	1.35
	改善率(%)	—	14.6	17.5	20.5
産業用途水 使用量削減	使用量(m ³)	461	444	479	470
	生産量(t)	3,162	3,066	3,548	3,548
	m ³ /生産t	0.15	0.14	0.14	0.13
	改善率(%)	—	0.8	7.5	9.2
産業廃棄物 排出量削減	発生量(t)	1,298	1,686	1,916	1,880
	生産量(t)	3,162	3,066	3,548	3,548
	t/生産t	0.41	0.55	0.54	0.53
	改善率(%)	—	-34.0	-31.6	-29.1
V.O.C 取扱量削減	発生量(kg)	(2012) 30,537	4,599	5,287	5,251
	生産量(t)	(2012) 6,660	3,066	3,548	3,548
	kg/生産t	4.59	1.50	1.49	1.48
	改善率(%)	—	67.3	67.5	67.7

(2) 経営(行動)計画

目標項目		取組内容
二酸化炭素 排出量削減	電力使用量削減	照明 ①昼休みなど、部屋を使用していない時は、照明消灯を確実に実行する。 ②会議室、給湯室、社員用トイレ、倉庫、更衣室等不要な時は、消灯する。 ③常に節電を心がける
		冷暖房 ①冷暖房の温度(冷房28℃、暖房22℃)を順守する。
		設備の節電 ①昼休みなど、休憩時、不必要な個所は消灯し、パソコンモニターの電源は切る。 ②工場では、昼休みはコンプレッサーを停止、または稼働機を減らす。 ③工場溶解部門では、1ch当たりの電気炉操作時間の短縮に努める。
	自動車燃料使用量削減	①車両のアイドリングを行なわない(冬期は可能な限り短縮)。 ②急発進・急加速・空ぶかしを行なわない等のエコドライブを実施する。
	灯油・LPG等使用量削減	①お湯出しっ放し禁止。(灯油) ②処理量の適正化等、ガス炉の効率的な運用を行なう。(LPG)
	削減 廃棄物	産業廃棄物(製造副産物)の削減 ①クロマイトサンド使用量を低減する。 ②砥石を適正使用し、廃棄量を抑える。 ③分別を徹底し、鉄製品を材料としてリサイクルする。 ④こぼれ砂を回収して再利用する。
量水 削減 使用	水道水使用量節減 ①水を出しっぱなしにしない。 ②節水の表示を行なう。 ③朝礼時に随時、節水を励行する。	
物化学 質学	V.O.C取扱量削減 ①使用量を把握する。 ②適正量使用に努める。	
その 他	グリーン購入	事務用品を可能な限り、エコマーク・グリーンマーク商品にする。
	社員教育	環境経営レポートを従業員全員に回覧し、意識向上を図る。
	地域活動	地域のクリーンナップ活動に参加する。

2021.4 クリーンアップ



2021.7 レポート回覧



2021.9 消火訓練



購入エコマーク製品



産廃管理（廃プラ）



産廃管理（鉱滓）



7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 新東北メタル株式会社

取組期間中の環境関連法規遵守状況は、2022年1月にチェックリストで確認し、その結果は下表の通りで法律違反は無かった。行政・地域住民・その他からの訴訟も過去3年間皆無であった。

法規制等の名称	該当する要求事項(対応すべき事項)	判定	法規制等の名称	該当する要求事項(対応すべき事項)	判定
大気汚染防止法	特定施設の届出	○	廃棄物処理法	委託基準:一廃収集業者の許可の確認	○
	排出基準の遵守	○		委託基準:産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	○
	測定・記録義務	○		掲示板:60cm×60cm以上表示、飛散・浸透防止、衛生管理	○
	事故時の措置と届出	○		マニフェストB2・D票90日、E票180日以内に送付。A、B2、D、E票の保管(5年間)	○
公害健康被害補償法	汚染負荷量賦課金の申告及び納付	○		産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	○
フロン排出抑制法	エアコン等の機器について定期点検(漏れ)を行なう	○		多量排出事業者の報告(1000t/年以上)	○
水質汚濁防止法	油及び有害物質の流出事故時の措置と届出	○		処理の状況について確認の努力義務	×
浄化槽法	保守点検、清掃、記録の保管(3年間)	○		水銀使用製品の廃棄物は他のものと混合しないよう保管し、許可を受けた業者に処分委託する	○
	定期水質検査	○		化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	取扱者は排出・移動量を報告
省エネ法 温暖化対策推進法	エネルギー管理統括者・管理企画推進者・管理者の選任・解任届	○			性状及び取扱に関する情報(SDS)の受取
	中長期計画書の提出	○	毒物及び劇物取締法	盗難/漏洩防止、容器、貯蔵場所に表示	○
定期報告書の提出(温室効果ガス算定排出量含)	○	事故・盗難時届出(警察など)		○	
県温暖化対策推進条例	温室効果ガス排出量等報告書の提出	○	高圧ガス保安法	特定高圧ガス消費施設等変更の届出	○
工場立地法	特定工場に係る変更をしようとするときは、届出	○		特定高圧ガス取り扱い主任者届出	○
	届出受理し90日を経過した後でなければ新設、又は届出に係る変更をしてはならない	○		CE設備保安検査	○
	届出事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を届出	○		CE設備自主検査	○
公害防止組織整備法	公害防止統括者を選任し届出(資格不要)	○	LPG設備自主検査	○	
	公害防止管理者選任、特定工場は区分毎に選任し届出(資格要)	○	消防法	危険物製造・貯蔵・取扱の指定数量以上の許可申請	○
土壌汚染対策法	3,000m ² 以上の土地の形質の変更をする者は、土壌調査を行ない結果・場所及び着手予定日他を届出	○		製造所等の危険物保安監督者の届出	○
	要届出区域内で土地の形質の変更をする際は、変更の種類、場所、施行方法及び着手予定日他を届出	○		指定数量未満(1/5以上)の危険物保管の届出	○
			環境活動・環境教育推進法	環境の保全に関する知識及び技能を向上させるために必要な環境教育を行うよう努める	○

8. 管理責任者の評価 新東北メタル株式会社

評価項目	内容
①環境関連法の遵守状況	環境法令等の違反は無し。
②環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況、その評価結果	『CO ₂ 排出量削減』は、生産量(出荷量)が目標を大幅(約400t)に下回ったことから、発生総量は4,188t-CO ₂ の目標を達成したものの、原単位では達成率89.3%の未達となった。 また『水使用量削減』は、主用途の冷却水がクーリングタワーの故障等により使用量が大幅に増加した事、及び生産量が目標を大幅に下回ったことから、原単位目標0.15tに対し0.30と大幅未達の実績となった。
③問題点の是正処置及び予防処置の結果	2022年度は徐々に生産量が増加していく見込みであり、『CO ₂ 排出量削減』は原単位目標の1.45をRT施策を積み上げていく事等により達成できると予想する。 『水使用量削減』は2021年度未達の主要因だった設備(クーリングタワー)故障に対し、稼働状況を毎日確認して不調時速やかに対処する事としたことにより改善され、やはり増産により原単位目標を達成できると思われる。
④外部からの苦情等の受付結果	無し。
⑤組織に影響する法規制動向	無し。
⑥グリーン購入の推進状況	価格を考慮したうえで、積極的に継続購入している。
⑦エコアクション環境改善提案	今年度は無し。
⑧その他	毎月の『安全衛生・環境会議』議事録を全従業員に回覧し、安全意識と共に環境意識向上を継続的に図っている。また、親会社日立建機(株)環境部門の指導を受けながら、取組を進めている。

見直し項目	評価	指示事項
1.環境経営方針	必要事項を満たしている。	今後必要に応じて見直す。
2.環境経営目標及び環境経営計画	2021年度は、CO2他環境負荷低減の取組を種々行ってきたものの生産量が計画を大幅に下回った事から、『産廃排出量』以外は目標未達となってしまった。 しかし、2022年度以降は増産状況が継続する見込みであり、CO2をはじめとする各負荷の確実な低減を目指す。	CO2他、水・産業廃棄物・化学物質についてもRT15を活用して施策を策定し、継続して低減に努める事。
3.実施体制	環境委員会の毎月の会議により、目標・実績・解析データ等の情報及び意識の共有が出来ている。	今後も安全衛生・環境会議を活用し、各種情報・意識の共有を継続する事。
4.その他	特に無し。	特に無し。



当社生産部品が使用されている日立建機超大型ショベル EX5600



AKITA SDGs